

(19) 日本国特許庁 (J P)

(12) 公開実用新案公報 (U)

(11) 実用新案出願公開番号

実開平7-41462

(43) 公開日 平成7年(1995)7月21日

(51) Int.Cl.⁶

G 0 1 N 33/48

識別記号

G

庁内整理番号

F I

技術表示箇所

審査請求 未請求 請求項の数3 O L (全 2 頁)

(21) 出願番号 実願平5-69780

(22) 出願日 平成5年(1993)12月27日

(71) 出願人 000002886

大日本インキ化学工業株式会社
東京都板橋区坂下3丁目35番58号

(71) 出願人 000001029

協和醗酵工業株式会社
東京都千代田区大手町1丁目6番1号

(72) 考案者 中村 俊樹

東京都国立市北1-8-3-202

(72) 考案者 小西 章平

東京都世田谷区野沢1-12-5

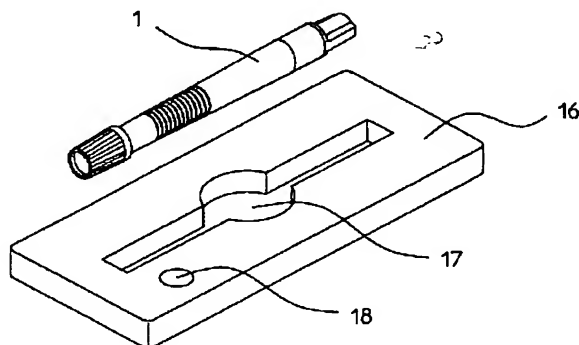
(74) 代理人 弁理士 高橋 勝利

(54) 【考案の名称】 採便容器包装体

(57) 【要約】

【構成】 採便容器と、該採便容器を収納、保持する合成樹脂製板状体とから成り、該合成樹脂製板状体には採便容器を横に倒して収納するための収納凹部と採便容器を直立に保持するための保持用凹部とが形成されている採便容器包装体。

【効果】 採便容器を極めて好適に輸送することができる。



1

2

【実用新案登録請求の範囲】

【請求項1】 採便容器と、該採便容器を収納、保持する合成樹脂製板状体とから成り、該合成樹脂製板状体には採便容器を横に倒して収納するための収納用凹部と採便容器を直立に保持するための保持用凹部とが設けられていることを特徴とする採便容器包装体。

【請求項2】 合成樹脂製板状体の厚さが10mm以下である請求項1記載の採便容器包装体。

【請求項3】 合成樹脂製板状体が合成樹脂発泡体によって形成されている請求項1又は請求項2記載の採便容器包装体。

【図面の簡単な説明】

【図1】 本考案に於ける採便容器の一例を示す断面図で＊

＊ある。

【図2】 採便容器と合成樹脂製板状体とを示す斜視図である。

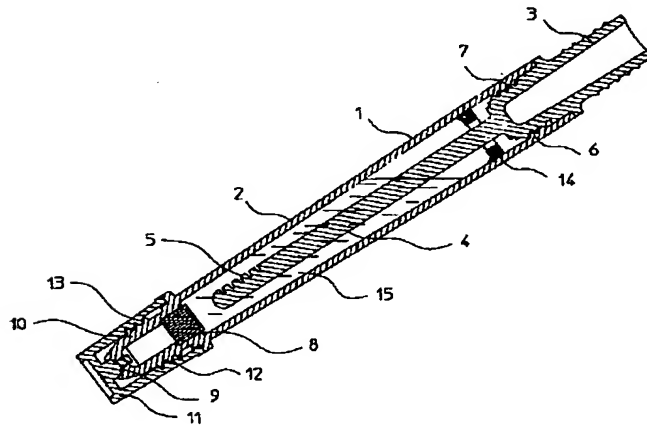
【図3】 採便容器を合成樹脂製板状体に収納した状態を示す斜視図である。

【図4】 採便容器を合成樹脂製板状体に直立に保持した状態を示す斜視図である。

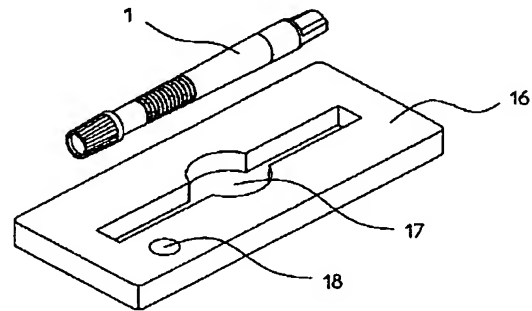
【符号の説明】

- 1 採便容器
- 16 合成樹脂製板状体
- 17 収納用凹部
- 18 保持用凹部

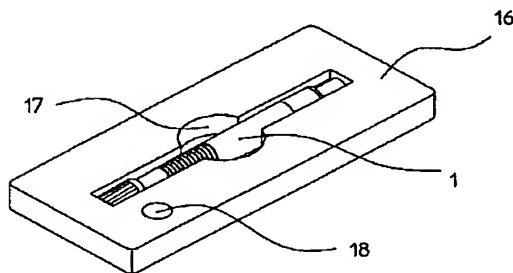
【図1】



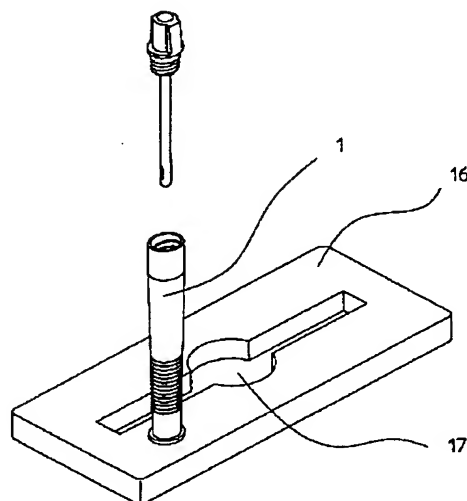
【図2】



【図3】



【図4】



【考案の詳細な説明】**【0001】****【産業上の利用分野】**

胃潰瘍、十二指腸潰瘍、大腸癌等の消化器系疾患を診断する為に糞便を採便容器に採取することが行われているが、本考案は、このような採便容器を個別に輸送する際に使用し得る採便容器包装体に関する。

【0002】**【従来の技術】**

従来より、採便容器を輸送することが行われているが、採便容器を個別に輸送する際には単に紙袋等に収納して輸送しているにすぎなかった為に、輸送時に衝撃を受けて採便容器が破損するなどの欠点があった。

【0003】**【考案が解決しようとする課題】**

本考案者等は、採便容器を個別に輸送する際に好適に使用し得る採便容器包装体について研究を進めた結果、本考案に到達した。

【0004】**【課題を解決するための手段】**

本考案は、採便容器と、該採便容器を収納、保持する合成樹脂製板状体とから成り、該合成樹脂製板状体には採便容器を横に倒して収納するための収納用凹部と採便容器を直立に保持する保持用凹部とが設けられていることを特徴とする採便容器包装体に関する。

【0005】**【実施例】**

以下、図面に従って本考案を説明する。

図1は本考案に於ける採便容器の一例を示す断面図、図2は採便容器と合成樹脂製板状体とを示す斜視図、図3は採便容器を合成樹脂製板状体に収納した状態を示す斜視図及び図4は採便容器を合成樹脂製板状体に直立に保持した状態を示す斜視図である。

【0006】

採便容器1は、容器本体2と、該容器本体2に取り付けられる蓋体3とを有している。

【0007】

蓋体3は、糞便を採取するための採取棒4を有し、該採取棒4には糞便を採取するために切欠5が設けられている。蓋体3を容器本体2に着脱自在に取り付ける為に、蓋体3には容器本体2の口部に設けられたネジ部6に螺合するネジ部7が設けられている。蓋体3は、ポリエチレン、ポリプロピレン等の合成樹脂によって成形することができる。

【0008】

容器本体2にはフィルター8を介して通孔9を有する滴下部10が形成され、該滴下部10にはキャップ11が滴下部10に設けられたネジ部12と、キャップ11に設けられたネジ部13によって着脱自在に取り付けられている。

【0009】

容器本体2にはネジ部6の内側に液漏れ防止リング14が取り付けられている。液漏れ防止リング14の内径は、3～4.5mmとすることが好ましく、これによって蓋体3を取り外した状態で容器本体2が倒れても容器本体2内に収納した糞便を懸濁させる為の液体15が容器外に流れ出ることを防止することが出来る。

【0010】

容器本体2、キャップ11及び液漏れ防止リング14は、ポリエチレン、ポリプロピレン等の合成樹脂によって成形することができる。

【0011】

合成樹脂製板状体16は、採便容器1を横に倒して収納するための収納用凹部17と採便容器1を直立に保持するための保持用凹部18とを有している。合成樹脂製板状体16の厚さは、5～10mmとすることが好ましく、合成樹脂製板状体16の厚さを10mm以下とすることによって定型郵便で輸送することができる。

【0012】

合成樹脂製板状体16は、ポリエチレン、ポリプロピレン、ポリスチレン等の

合成樹脂によって成形することができ、合成樹脂製発泡体によって成形することが特に好ましい。

【0013】

採便容器1を輸送する際には、図3に示すように採便容器1を合成樹脂製板状体16の収納用凹部17に収納すればよい。

【0014】

採便容器1に糞便を採取するには、採便容器1を合成樹脂製板状体16の収納凹部17から取り出し、蓋体3を容器本体2から取り外し、図4に示すように容器本体2を合成樹脂製板状体16の保持用凹部18に直立に保持させ、採便棒4の切欠5で糞便を採取し、採取した糞便を容器本体2内の液体15中に懸濁させ、ネジ部6及びネジ部7によって蓋体3を容器本体2に取り付け、次いで採便容器1を合成樹脂製板状体16の収納用凹部17に収納すればよい。

【0015】

また、採便容器1内から糞便を懸濁させた液体15を取り出すには、採便容器1を合成樹脂製板状体16の収納用凹部17から取り出し、キャップ11を取り外し、次いで容器本体2を押し压しつつフィルター8を通して滴下部10の通孔9から糞便を懸濁させた液体15を滴下させればよい。

【0016】

【考案の効果】

本考案に係わる採便容器包装体は、輸送時に衝撃を受けた際にも採便容器1を破損することなく輸送することができる。

【0017】

更に、本考案に係わる採便容器包装体は、糞便を採取する際に採便容器1の容器本体2を合成樹脂製板状体16の保持用凹部18に直立に保持させることができる為に採便時の操作が極めて容易である。